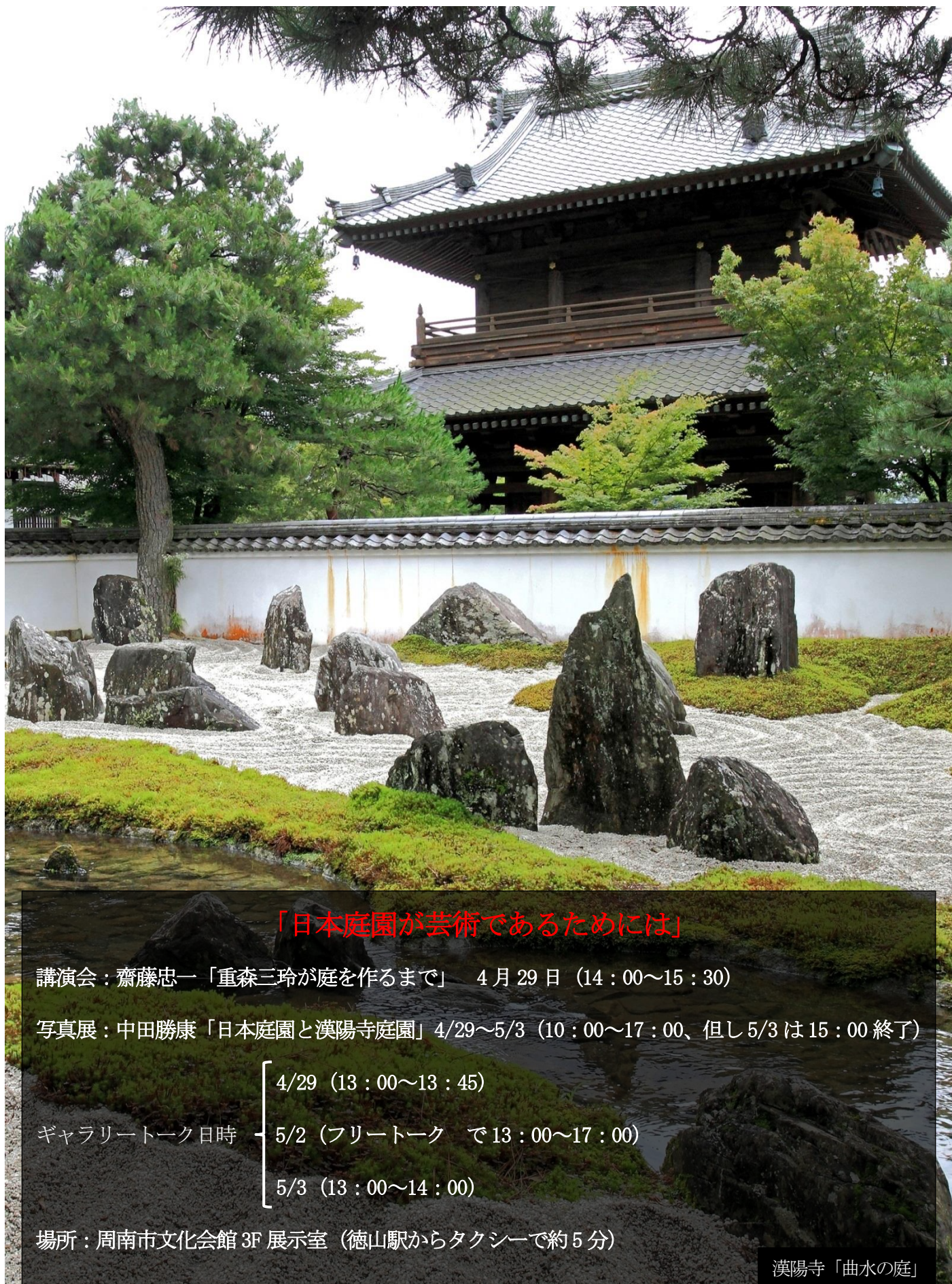




「日本庭園が芸術であるためには」

講演会：齋藤忠一「重森三玲が庭を作るまで」 4月29日（14：00～15：30）

写真展：中田勝康「日本庭園と漢陽寺庭園」4/29～5/3（10：00～17：00、但し5/3は15：00終了）

ギャラリートーク日時

4/29	（13：00～13：45）
5/2	（フリートーク で13：00～17：00）
5/3	（13：00～14：00）

場所：周南市文化会館 3F 展示室（徳山駅からタクシーで約5分）

漢陽寺「曲水の庭」

主催：重森三玲庭園の会

共催：周南市、周南市教育委員会、（公財）周南市文化振興財団、（一財）周南観光コンベンション協会

後援：山口県、山口県教育委員会、光市教育委員会、周南文化協会、潮陽会、京都林泉協会

協力：明るく元気な鹿野をつくる会

はじめに:周南市鹿野の名刹・漢陽寺の庭園は、昭和の雪舟と称される作庭家・重森三玲の手によるものです。地域の宝として日本庭園史における価値を学ぶとともに、広く知らしめることを目的として、このたび齋藤忠一先生の講演会と中田勝康先生の写真展を開催する運びとなりました。この機会に、長い伝統を保ちつつも大胆な変革を恐れない日本庭園の崇高な精神と、高い芸術性について理解を深め、地域文化の振興に寄与することを期待しています。

周南市教育委員会教育長・中馬好行

漢陽寺と重森先生:当寺が重森先生とご縁が出来ましたのは、私の父の時代昭和43年の6月に宇部市の宗隣寺での改修工事の際に、重森先生にお会いして、漢陽寺での作庭を依頼いたしました。



早速に漢陽寺を訪問され境内を一巡りされた先生は、裏山に掘られた「潮音洞」という疎水を活かした庭園にしたいとのご意向でした。この地を潤した命の水ですから私たちは大いに喜びました。昭和44年5月に始まり45年年11月の間に4庭が完成いたしました。即ち方丈の南側に前代未聞の「曲水の庭」が作られ、北側の「蓬萊の庭」にも水を通らせ、更には庫裏の東側の「九山八海の庭」では「八海」を「潮音洞」の水で満たしました。これら3庭は総てこの地に根差した命の水が主役になりました。坪庭は地藏菩薩が童と遊ぶ姿の枯山水庭になりました。

昭和48年5月作られた「曹源一滴の庭」は鹿野町内の道路西側の山が崩れ落ちた時に露わになった巨石が寄贈されたものです。6庭目の庭として7月には新感覚のモダンな設計の「聴流殿前庭」が完成いたしました。

漢陽寺・杉村五由

プロフィール

①重森三玲(庭園芸術の宿命):重森は日本画家を目指して学生時代を学んだが、紆余曲折の後、約200庭を作り、庭園に関する著述を残した。以下に不朽の大著を示し、さらに重森が創作庭園家としての考え方を示す。

1『日本庭園史図鑑』全26巻が昭和14年3月に全巻完成した(昭和11~13年に約300庭実測調査し、243庭掲載)。

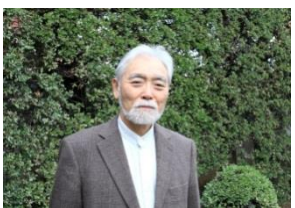


2『日本庭園史大系』全35巻 昭和46年上梓。

庭園芸術の評価が難しい理由の一つは、素材が天然自然にある石、草木、砂、水であり、しかも、それを用いて造形されたものも何らかの意味で自然の風景である点にある。多少下手な造形であっても、山や川があり、自然らしく出来ているだけで、ある程度の満足を得ることができるだろう。いわゆる自然の縮小コピーである。しかし、自然らしさを楽しむのであれば、自然そのものを楽しめばよいのであり、自然そのものに勝るものはない。自然の素材を使いながらも自然を超えた形を創造すること、言い換えるなら、あるがままの自然ではなくて、人が感じた自然、単なる自然を抜け出し、超えたものを創造することこそが正に芸術といえる。

庭園と類似の芸術として、生け花を考えればもっと明瞭である。素材は草木であって、神の作った自然そのものだ。この自然の素材で自然を超えた形を創作することは、一見簡単なようで非常に難しい。もちろん、無造作に花を生けても、それなりに美しい情景を得ることができる。しかし、美しいのは花そのものではなくて、花を超えた何かなのである。もし生け花が単なる自然ではなくて、芸術であると考えられているとすれば、そこでは、花が作者によって自然から切り離され、改めて作者が作り上げた独自の自然が再構築されていなければならない。『重森三玲 庭園の全貌』学芸出版社 3頁より引用

②齋藤忠一:重森三玲が、作庭家になったのは極めてまれなチャンスからである。ある日、突然に自邸に庭を作らねなければならなくなった。大正14年、29歳の時である。関東大震災で岡山の郷里に帰り、農業に復していた。その時、村の吉川八幡宮の社殿の素晴らしさに気づき、国の特別保護建造物の指定を受けようと奮闘する。文化財の指定審議官として東大の関野貞博士が調査に来村することになり、「村には、宿も食堂もないから自邸で全ての接待をするように」と、同郷の田村剛博士から助言を受けた。さらに博士は、「出来れば庭でも作ってお迎えするように。」とも付け加えた。この時から三玲は作るようになり、しかも極めて超モダンな庭を作り続けるようになった。



③中田勝康 (<http://muso.to/> e-mail:j.garden@outlook.jp)



私は日本庭園が世界基準で評価して、芸術であるためには如何にあるべきかを考えています。日本庭園を各時代の宗教の影響を受けた造形と捉え、その抽象化のレベルで区分してみました。その結果、日本庭園を俯瞰的に区分いたしますと5つの系譜に区分できると考えます。即ちこの系譜は外来の思想(道教・浄土教・禅宗・ヨーロッパ抽象主義など)と天才作家(蘭溪・夢窓・雪舟・小堀遠州・上田宗箇・小川・重森など)が織りなす造形様式であります。

今回の写真展の内容は山口県を中心とした中国地方には漢陽寺をはじめとして重森三玲の傑作庭園が多い。一方、古庭園も雪舟を初めとして多くの庭があり、庭園愛好家にとっては興味の尽きない地域です。

写真の展示は以下のように四つに区分して展示いたします。

1 漢陽寺の重森三玲庭園 2 京都市、大阪府などの代表的な重森庭園 3 山陽・山陰地方の古庭園 4 全国の古庭園

1 漢陽寺の重森三玲庭園

当時には参道から始まり本堂、庫裏を取り巻く六つの庭があり、庭園美術館とも云える。各タイプの庭があり庭園愛好家必見の寺。

①曲水の庭(昭和44年73歳)

②地藏遊戯の庭(同左)

③蓬莱の庭(同左)

④九山八海の庭(昭和44年73歳)

⑤蕭湘八景の庭(昭和48年77歳)

⑥曹源一滴の庭(同左)



①曲水の庭: 重森が方丈の南庭に水を通したのは1654年に開削された潮音洞からの湧水が村人を救った故事にちなんでいる。禅寺としては前代未聞の曲水の庭にした。一方当寺の本尊が観音菩薩であることに因んで、観音菩薩が三十三変化して人々を救うという謂れから、この庭園は三十三石による石組みが造形されている。



②地藏遊戯の庭: 地藏菩薩が童と手をつないで輪舞する造形だ。石は中心に向かって左に傾けることで永遠に回り続ける。



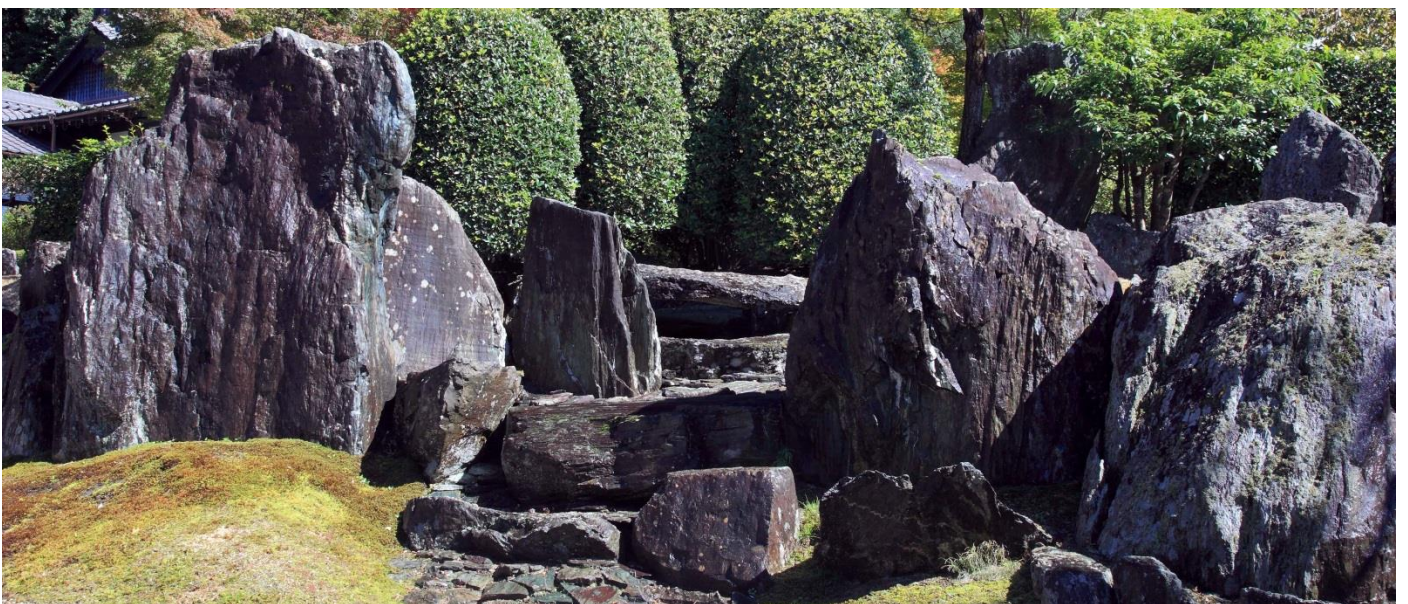
③蓬萊の庭: 道教の核心である蓬萊山をテーマとした。蓬萊連山の端正な石組と変化のある護岸の石組みの対比が面白い。



④九山八海の庭: 仏教思想の壮大な宇宙観を視覚化した造形。須弥山と周辺八石で九山を、潮音洞の水を八海に見立てた。



⑤蕭湘八景の庭: 色彩鮮やかな幾何学模様の庭。この斬新でモダンな造形は最初期(S14)の東福寺西庭の完成形だ。



⑥曹源一滴の庭: この重厚で質実剛健な石組みは他に類をみない質量である。造形を超えた不動の禅思想を感じる。⑩にヒント

2 京都市・大阪府などの代表的な重森庭園



⑦東福寺南庭(京都市国名勝):昭和14年に作った永遠のモダンと云える庭。庭園を鑑賞する人がほとんどいなかった時代に重厚でストイックな石組みを完成させた。当時の評価は散々なものであったが、重森は創作庭園に邁進した。立石と横石の組み合わせた独特の石組み造形は禅庭園の傑作として世界的な評価を不動なものにした。縦横の構図は下記⑧金地院から触発を受けた。



⑧東福寺北庭:誰にでも愛されるモダンな造形。この幾何学模様の造形は余材を活かした創作庭園で時代を超えていた。



⑨岸和田城(岸和田・国名勝):城郭を象徴した屈曲線は従来の石組のみの日本庭園を超越した世界基準に合う造形になった。



⑩松尾大社(京都市):重森三玲の遺作に相応しい日本庭園の最高傑作。松尾の神を象徴した石組は自由な抽象造形に昇華されている。巨石の乱舞する石組は雛壇状に土盛りされた斜面に配石され、視点が動くと立体造形は連続的に変化する。



⑪前垣家(東広島市): 軒下の洲浜造形は個人庭の基準となる。



⑫小河家(益田市): 他に類例がない豪華絢爛たる石組みはまさに「美は力なり」。

一方書院前の露地は繊細なデザインがあり重森の多様性を示している。

3 山陽・山陰地方の古庭園



⑬宗隣寺(宇部市): 池中に2列の列石による斬新な立体造形



⑭普賢寺(光市): 三尊枯滝に向かう鯉魚石のある龍門瀑だ。



⑮常栄寺(山口市): 雪舟が水墨画を三次元化した。



⑯常栄寺(山口市): 龍門瀑をV字型の地形に7段 20mの造形。



⑰桂家(防府市): 抽象枯山水で土塀背後の自然風景と好対照



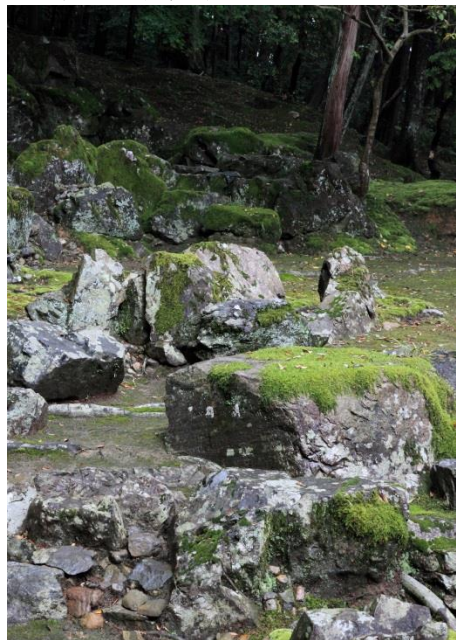
⑱萬福寺(益田市):

築山上に須弥山を象徴した幾何学的造形。この下にある須弥山と反対向きに均衡している石も特異な存在である。

一方、池泉部の右側山畔部には龍門瀑があり、鯉魚石が垂直に飛翔している。



4 全国の古庭園(枯山水を中心として)



⑪西芳寺(苔寺):3段の枯滝を鯉魚が登る『碧巖録』の物語を視覚化した造形。



⑫龍安寺:この抽象庭園の土塀の外には京の自然風景が見えた。人工造形と自然風景の好対照が、人工造形美を際立たせる。

上部写真は方丈からの景

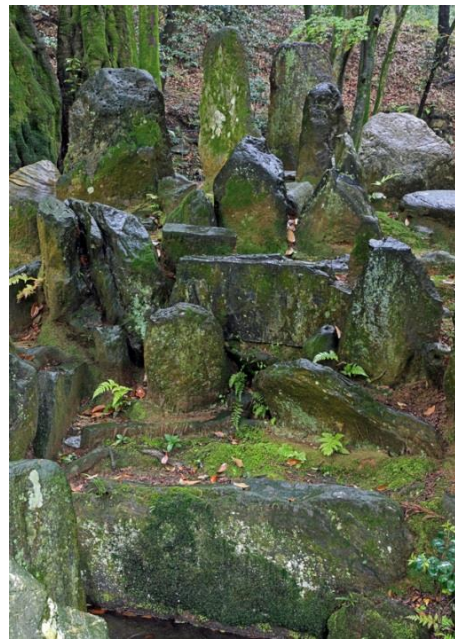
下部写真は東側からの景



⑬天龍寺:龍門瀑のテーマを視覚化した造形で、当テーマの原点と云える。



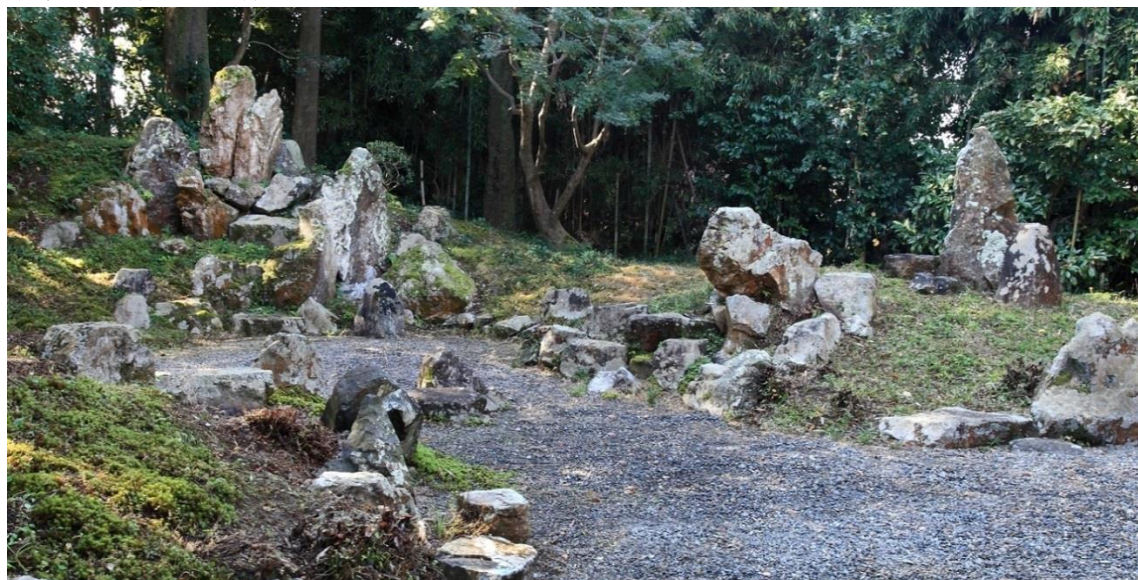
⑭東海庵(妙心寺):七石による極小の庭であるが、動きのある広大な宇宙を象徴



⑮保国寺(西条市):立石の林立する造形の中に鋭い稜線の横石の滝が目を引く。



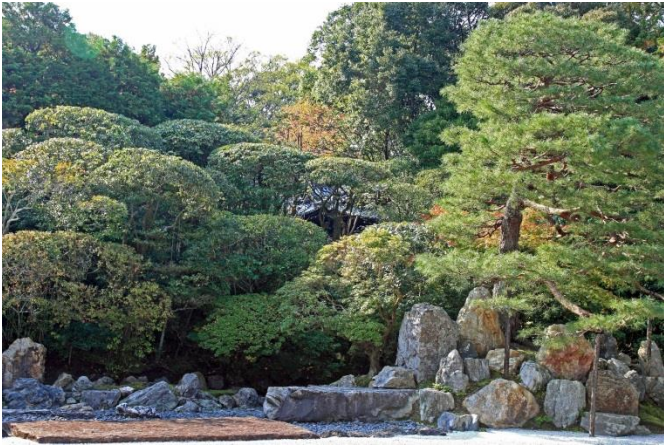
⑯龍源院(大徳寺):四方を廊下に囲まれた坪庭。二群の石組みが均衡している。



⑰福田寺(米原市)

近景は低く組み、中景は傾斜した石、遠景は築山に三尊枯滝がある逆遠近法を意識した造形だ。滔々流れる枯滝が迫ってくる。

右側出島上にある傾斜した石は水墨画の写しで⑮常栄寺庭園と同様の造形だ。



㊸金地院(南禅寺):小堀遠州の庭。彼は斬新な幾何学模様の庭を創作した。鶴島の立石、横石の石組みは上記⑦に影響。



㊹青岸寺(米原市):近景に鶴を背負った亀島、中景に不動の滝、遠景に三尊石組があり、遠近効果のある水墨画的庭園。



㊺阿波国分寺(徳島市):阿波の青石の特性を生かした幾何学模様の石組み。イサム・ノグチのバリのユネスコ庭園に影響した



㊻久留島家(大分県玖珠町):どこにでもある石を抽象的に配石した龍安寺式抽象庭園の帰結と云える。背後の自然と好対照。



㊼粉河寺(紀の川市):本堂前の擁壁に作られた特殊な庭園。鶴亀蓬萊の庭であり、玉潤式庭でもある。重森の上記⑥に影響した。